

一期一会

～気づこう差別～

伊集院中学校人権・同和教育係

「ハンセン病」って何だろう？

○ハンセン病回復者の堅山さんの手記を読んで下さい。(県教育委員会人権教育資料より)

「夢見る故郷の空」

堅山 勲

中学2年生13歳の時、体に発疹が現れ、まもなく先生から「きみは学校へ来なくていいよ」と言われました。そして何がなんだか分からないうちに、星塚敬愛園(入所者の現在の平均年齢は約87歳です)に入所させられ、園に着いたその日に強制的に偽名を名のられました。はじめて外出許可をもらい故郷の父に会いに帰りましたが、そこに待っていたのは「もう二度と帰ってくれるな。兄や姉たちにも迷惑がかかるといけないから」との父の言葉でした。父にそう言わせたのは「らい予防法」があったからです。それは私から家族を、友達をそして故郷を、さらには教育をうばいました。以来、私は故郷をあきらめ夢の中でしか故郷へは帰れなくなりました。父が亡くなったのも知らされず、知ったのは亡くなってから六年後のことでした。

○ハンセン病とはどんな病気なのか？



ハンセン病は、「らい菌」という細菌による慢性の感染症です。皮膚や末梢(末端)の神経がおかされる病気なので、有効な治療法がなかった頃は、顔や手足が変形したり視力障害などの後遺症が残ったりしたこともあります。だから、見た目で差別され、国の施策として隔離されてきたのです。しかし、昭和18年にアメリカで「プロミン」という有効な薬が発表され、現在では全員完治していますし、感染の報告もありません。

○現在の国立療養所には回復者の方々が、今も住んでおられるのですか？



隔離政策がなくなり数十年来の夢がかない、やっと園から出られることになりましたが、あまりにも長い年月が経過したことで「身寄りがなくなってしまった」「今さら帰れない」「園の生活に慣れ、このまま園で過ごしたい」等の理由で残っている方々も少なくありません。現在、療養所はハンセン病についての理解を深めてもらうために見学や学習の場として活用されています。また、療養所の方々は地域行事に参加するなど地域住民の一人として生活しています。星塚敬愛園(鹿屋市)の上野正子さんは偏見や差別をなくすために講演活動をされており、一昨年は伊集院中学校においていただきました。

○今もなお残るハンセン病回復者への差別

平成8年の「らい予防法」廃止まで続いた国の長年にわたる誤った隔離政策により、ハンセン病は「感染力の強いこわい病気」というイメージが定着してしまいました。また、顔や手足の変形といった外観からわかる後遺症が残ったことで、宿泊を拒否されるなど、今もなお差別が根強く残っています。

私たちは、**真実**を知らなければなりません。また、**真実**を知ろうとしなければなりません。それが、「差別に気づく」ことにつながるからです。

私たちは**見た目**で差別をすることがあります。本人に責任がないにもかかわらず……。一人ひとりが尊重される社会になるといいですね。そのためには私たちはたくさん学びましょう。

一期一会

～気づこう差別～

伊集院中学校人権・同和教育係

「人権学習」

「人権!？」って何でしょう。

人権とは「人が幸せに生きる権利」です。差別とは「人が幸せに生きようとする権利をじゃまする行為」です。では、幸せになるために「自分は何でも好きにすればいいんだ。」となると、その周りの人たちの「幸せに生きる権利」をじゃまする(侵害する)ことになります。ですから、「自分の人権を守る」ということは、「相手の人権も尊重する」ということなのです。

6月5日と8日に、学年毎の人権学習を実施しました。そのときの子どもたちの様子感想を紹介します。わたしたち大人は子どもたちの成長を願っています。この人権学習を通して、その成長を垣間見ることができましたので、生徒と保護者のみさんに紹介します。なお、すばらしい感想がたくさんありましたが、多くは載せることができませんでした。ご了解下さい。

1年：アサーショントレーニング

さまざまな場面を想定して「攻撃型」「主体型」「受身型」など、どんな対応が相手を傷つけないのか、仲良くやっつけられるのか、みんなで考えることができました。(相手の立場を考える)



自分は「攻撃型」だと思った。それが「主体型」になれるように頑張る。人の意見を尊重しつつ、みんなの意見をまとめて、いごちのいい思いやりのある優しい学年、クラス、学校にしていきたい。
前 陽向

「主体型」をした方がいいのは分かるけど、けっこう難しいと思う。今回の学習で相手のことまで考えていなかったことに気づいた。だから、これからは相手と自分、どちらも考えられる人になりたい。考えるところはちゃんと考えられて楽しい授業でした。
石原 彩奈

ちょっとした言葉で人の気持ちは変わると思うので、その言葉はいいのか、人が傷つかないかなど、少しでも考えて言葉をかけてあげられるようにしたいと思います。そのために、人が話をした後、相手の立場になって考えたいと思います。
今村 涼風

ぼくは、今まで「受身型」だったけど、このままではいけないことが分かった。これからは友だちと協力して主体型になっていけるように頑張って、みんなの意見をまとめたり、いじめを止めたりできるようになりたい。
逆井 駿希

2年：スクリーン劇「在日の今～近くにいてよかったね～」

パクヘンジャは在日朝鮮人としていろんな差別に直面します。しかしながら、まわりの理解と支援を受け、悩みながらもたくましく生きていきます。その姿を劇にしました。(国際理解)



主人公の友だちが悪意はないが主人公にとってはつらい言葉を言った時、私は人の気持ちを考えずに思ったことをそのまま言ったらダメなんだと思った。相手はつらい思いをしないだろうか、と考えて行動したい。
矢野 心愛

学習全体を通して、今までの自分を見つめ直し、問うことができた。差別・いじめのない環境をつくるために「自分は今、何をすることができるのか。」と、常に考え行動することができる人間になりたい。
石原 健人

正直、中国や朝鮮にはあまりいいイメージがなかった。でも、今回差別について学習し、今までの自分してきたことは差別で、心が冷たいんだなと思った。これからは今までの行動をあらため、人権を大切に思いやりを持つと思う。

有馬 言美

自分と“違う”というのは怖いかもしれませんが、“違い”は“個性”です。それぞれの“個性”をみんなで大切にできる集団がはじめのない集団を創る、大きな第一歩なのだと思います。

池田 敦哉



3年：スクリーン劇「汚染一揆」

歴史への正しい理解と差別に対して立ち向かっていく村人の姿に学ぶため、劇「汚染一揆」にとりくみました。
(差別に気づく、負けない)

声優さん三人の感想です。(短くまとめてあります)

ブンの父親が差別を受けていた村人を集め、話し合い、嘆願書を作って訴えていく姿に感動しました。もし、人としての誇りを傷つけられるようなことがあれば、自分であっても、誰かであっても立ち向かっていくような人になりたい。

河野 遥斗

私は差別をする側とされる側の役を通して、両方の気持ちを体験できました。私が学んだのは差別に立ち向かっていく強い心と苦しい人や困った人に寄り添う優しい心です。私は、今後苦しみを分かち合い、困難に立ち向かえる人になりたいと思いました。

宇都 唯美華

ブンの父が差別をされているみんなの意見をまとめて、命をかけて嘆願書を殿様のところへ届ける行動にとっても感動しました。そしてとても尊敬しました。もし、自分だったら一揆という行動はできなかったと思います。でも、行動しなければ一生差別を受けたままです。もし、差別を受けたら、強い気持ちを持ってみんなと一緒に立ち向かいたいと思います。

牧野 雄大

スクリーン劇を鑑賞した感想です。

差別を受けて苦しいときがありました。また、逆に悪口を言うてしまうこともありました。今回の劇を通して、これからの人生では苦しんでいて助けを求める人に手を差し伸べてあげて、自分は今のなさけない自分よりもっと強くやさしい人になりたいと思いました。

春成 碧

今日学んだことを生かして、差別にあっても負けない力と差別をしない心を持つと思う。もし何かあったら、自分のできることを精一杯して、立ち向かっていこうと今回の劇を聞いてみて、あらためて思った。

田輪 怜花

中学校の人権学習のたびに差別しないことを普通にしようとすごく努力しているが、たまに差別する心がでてくる。そのときは自分が情けなく感じるがあった。今日の学習で気をつける意識がさらに強まった。

東山崎 伶

今日学んだことを生かして、これから誰かが差別をされていたら、見て見ぬ振りをせずに、差別などをさせない雰囲気をつくっていきたいと思った。もしも差別に気づいたら止められるようにしたいと思った。

家村 怜臣

声優さんへ一言

- ・今日は全員が素晴らしく、場面を想像することができました。有り難うございました。
- ・みんな役になりきっていて、声を変えたりして、本当にすごいなと思いました。
- ・役になりきって一掃懸命さがすごく伝わって、役そのものに見えた。
- ・完成度が高すぎて驚きました。読み方が上手だったので内容に入り込みやすかった。
- ・大勢の前で堂々と一言一句に気持ちを込めてできているのがすごいと思った。
- ・登場人物の心情や情景が声優さんのおかげですぐ浮かんで、まるで物語に入ったかのように感じました。素晴らしかったです。
- ・私は声優をした側だけど、2週間練習して、誰よりもこの話について多くのことを学べたと思う。すごく良い経験になった。
- ・声だけで圧倒された。・最初から最後まで迫力があってすごかった。